

# 令和6年度 第1回定住自立圏共生ビジョン懇談会議事概要

- 【日 時】 令和6年11月1日（金） 15時00分から16時00分まで  
【場 所】 苫小牧市役所 9階議会大会議室  
【参加者】 ●定住自立圏共生ビジョン懇談会委員（11名）  
笠原座長、長澤副座長、内山委員、小坂委員、原委員、菊地委員、高本委員、塚原委員、野宮委員、村田（貴）委員、横澤委員  
●事務局  
苫小牧市、白老町、厚真町、安平町、むかわ町

## 議 事 内 容

### (1) 開会

### (2) 議事

#### ①次期定住自立圏共生ビジョンについて

##### 【事務局より説明】

今年度は、現行の定住自立圏共生ビジョンの最終年あたることから、次期ビジョンの素案を作成しましたので、本日は素案についてご意見をいただければと思います。

まずは令和2年度～令和6年度の検証として、令和5年度末時点の進捗状況について説明いたします。

はじめに、3ページをお願いします。『I生活機能の強化に係る政策』の『ア医療』、『①医療情報のネットワーク化』の『地域医療連携システム整備事業』ですが、登録医療機関数が22か所となっております。登録している医療機関の閉院などによって、基準値から減少し、達成は困難な見込みです。

次に『②広域救急医療体制の充実及び病診連携』の『初期救急医療・広域医療体制の充実』ですが、夜間・土曜・休日に対応可能な二次救急の輪番制医療機関数は苫小牧市立病院と、王子総合病院の2医療機関を維持しております。

次に4ページをお願いします。『イ福祉』、『①高齢者等の見守りSOSネットワーク』の『SOSネットワーク事業』ですが、事業の周知回数が54回となっております。コロナ禍以降、周知機会が減少しており、達成は困難な見込みです。

次に『②障がい者等の地域生活支援』の『障がい者等の地域生活支援拠点事業』ですが、相談件数が、11,276件となっております。令和4年度末時点と比較すると数値は伸びていますが、コロナ禍の影響から回復ができていないものになります。

次に5ページをお願いします。『③在宅医療・介護連携推進事業』の『在宅医療・介護連携推進事業』ですが、相談窓口の設置数は5か所を維持しております。

『④成年後見制度の利用支援体制の充実』の『成年後見制度の利用支援体制整備事業』ですが、令和4年度から厚真町、安平町、むかわ町と広域化した事業で、相談件数が238件と目標値を超える結果となっております。

6ページをお願いします。次に『ウ教育』、『①生涯学習機会の充実』の『生涯学習機会の充実、圏域内文化の共有』ですが、生涯学習関連講座開設数が674講座となっております。コロナ禍から回復傾向にありますが、まだ基準値には届いていないものとなります。

次に『②図書館の相互利用の促進』の『図書館の相互利用の強化』ですが、苫小牧中央図書館から4町在住者への延べ貸出数が2,348人となっております。令和4年度は2,084人と、コロナ禍以降人数が増えておりませんが、電子図書館のさらなる普及などの要因で、目標値を上回っております。

次に7ページをお願いします。『エ産業振興』、『①地域ブランドの推進』の『地場製品のPRや産業振興に

関する連携』ですが、地域ブランドの合同PR回数が年4回と目標値を達成しております。

次に『②鳥獣害防止事業の推進』の『鳥獣被害防止対策事業』ですが、情報交換回数が3回と前年度から1回増えているものの、目標値には未達となっております。

次に8ページをお願いします。『オ防災』、『①防災体制の充実』の『防災体制の充実』ですが、会議及び訓練回数が累計29回となり、目標を達成しました。

次に『カ環境』、『①循環型社会の構築』の『循環型社会の構築』ですが、家庭ごみの排出量41,211tとなっております。コロナ禍の巣ごもりにより一時的に排出量が増えましたが、昨年度の42,779tからさらに減少しております。

次に9ページをお願いします。『Ⅱ結びつきやネットワークの強化に係る政策分野』の『ア地域公共交通』、『①地域公共交通の維持確保と利用促進』の『生活バス路線の維持・確保』ですが、地域間幹線系統数5系統を維持しております。

次に『イ交通ネットワークの整備促進』、『②圏域内における交通ネットワークの形成』の『期成会活動の促進』ですが、苫小牧地方総合開発期成会の国への要望回数は3回を維持しております。

なお、令和2年から令和5年までの交通インフラ整備促進のための要望活動を通じ、実現した具体的な要望は、「苫小牧中央インターチェンジの早期供用開始」、「道道千歳鷺川線の橋梁整備」などが挙げられます。

次に10ページをお願いします。『ウ生産者と消費者の連携による地産地消』、『①地産地消の拡大』の『地産地消の推進』ですが、東胆振物産まつりなどの個別事業の売上額は743万円です。こちらは、出店数の減少などにより、基準値から減少しています。このため、今年度は物産祭りの会場をドン・キホーテから苫小牧イオンへ変更して開催するなど、手法を変えながらさらなる地産地消に取り組んでいます。

次に『エ移住・交流』、『①移住・交流促進』の『移住関連情報の一体的な発信』ですが、情報発信回数は移住フェアへの出展や、ラピダスの千歳進出に伴い、道外の半導体関連企業に1市4町の魅力をまとめたパンフレットを送付するなど、25回となっております。

次に11ページをお願いします。『オその他の結びつきやネットワークの強化に係る連携』、『①広報連携による情報提供』の『①広報連携による情報共有や情報発信』ですが、東胆振ブランド創造協議会等によるInstagram投稿など、インターネットを活用した情報発信回数が32回となっております。

次に『②地域情報化の推進』の『自治体クラウドの導入及び管理』ですが、共同する業務システム数は33となっており、基準値から変更はありません。

次に12ページをお願いします。『Ⅲ圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野』の『ア宣言中心市等における人材育成』、『①職員の合同研修等の実施』の『職員研修に係る情報共有及び合同研修の実施』ですが、年7回となっており、基準値より減となっております。

## Ⅱ：主な変更点

14ページをお願いします。圏域の概況について人口やそれぞれの町の特色について更新しています。

次に15ページをお願いします。2015年から2040年までの国立社会保障・人口問題研究所が公表している最新の将来人口推計をもとにグラフを記載しています。

圏域人口の減少傾向は避けられず、2040年には約20%にあたる4.2万人減少し、17万人を下回る想定となっています。

次に16ページをお願いします。0歳～14歳の年少人口、15歳～64歳の生産年齢人口、65歳以上の高齢人口3区分に分けたグラフです。

今後も生産年齢人口及び年少人口の割合が減り、高齢人口は増え続け、2040年には高齢化率が約40%になると推計されています。

次に17ページをお願いします。直近5年間の前年比の人口変動数を記載しています。

先日事前配布した資料には安平町の人口が微増している年があると記載しておりましたが、数値に誤りがあり、いずれの年においても減少しておりましたので、修正しております。

年によっては社会増となっている自治体もありますが、どの自治体においてもそれ以上の自然減が人口減少の大きな主な要因となっています。

次に18ページをお願いします。先ほどご説明した、今期間の取組結果を掲載しています。次期ビジョンにおいては、より実効性のある指標や数値目標を設定する必要があると考えており、新たなKPIは次回の懇談会でお示ししたいと思います。

次に19ページをお願いします。圏域の目指すべき将来像を記載しています。近隣市への次世代半導体企業進出に伴う産業の発展、ゼロカーボンへの取組など、限りある資源を活用し圏域のポテンシャルを存分に発揮することで、持続可能で安心して暮らし続けることができる圏域を目指します。

次に20ページをお願いします。圏域の目指すべき将来像をビジュアルで示しております。前回の懇談会で内山委員からご意見をいただいた、「デジタル技術の活用はあくまでも手段である」という意見を参考にさせていただき、3つの柱を軸にしつつ、全ての取組において可能な範囲でデジタルの要素を取り込んでいくというものをイメージしています。

次に21ページをお願いします。協定に基づき推進する具体的取組を記載しています。

令和5年1月に苫小牧市と4町において、「防災」分野に「消防」を追加しております。また、「環境」分野でかねてより協議を進めている下水汚泥・し尿処理についても、厚真町、安平町、むかわ町と協定を締結する方向で調整しておりますので、それぞれの市町における議決が完了次第、次期ビジョンにも掲載する予定となっています。

22ページをお願いします。次に資料編1具体的な事業と内容について、先ほど説明した「消防体制の強化」に関する協定に基づく取組を新たに追加しています。

この取組により、現在はそれぞれのまちで受けている消防指令業務を広域化し、苫小牧市で行うこととなります。

具体的には、令和8年4月の共同運用開始に向けて準備を進めてまいります。

次に23ページをお願いします。資料編3の委員名簿を更新しています。

以上で説明を終わります。

## ②意見交換

### ○笠原座長

順番にビジョンに対するご意見を。

### ○委員

デジタルの分野をビジョンに盛り込んでいただきありがたい。

三つの分野それぞれの各項目について、デジタル技術がどう活かせるか考えてきたのでお話したい。

地域公共交通についてはどこも難しいという状況が続いており、この圏域においては苫小牧駅が中心的な役割を担っている。

路線バス等はあるがその先が問題と思っており、最終的なラストワンマイルとして自動運転等が導入できればよいと思う。今後データセンターが苫小牧市に進出するが、データセンターだけではなくソフトバンクさんやMONETさんなどにより協力できるような体制を苫小牧市で構築し、広域による共有化体制ができればよいと思う。

ブランド力については、東胆振のブランドを盛り上げていくという記載がある。東胆振地域ブランド推進計画も読んだが、東胆振というブランドを盛り上げようというふうになかなか書いておらず、東胆振がどうなるかということも含められたらよいと思う。むかわが、苫小牧市が、安平がではなく、全部まとめてこういうブランディングですというのがあるべき姿だと思う。

医療や防災は、デジタルを生かせる部分になると思っており、記載されている医療のネットワーク化のみならず、夜間診療の部分など24時間365日可能なオンライン診断等も取り組めたらよい。

また、防災に関しては、年初にあった能登の災害のときに、スターリンク等の衛星通信を活用したサービスがかなり有用だということが証明されたので、この辺りを含めながら、初期の災害のときには緊急の連絡、後々の避難の部分だと避難者のための通信インフラを使うなど、冗長的な構成もできると思うのでシェアしながら体制を構築できればよい。

### ○座長

公共交通の部分では、医療の分野でもこれから免許返納等、受診機会が減るという状況になると、結果として救急等にしわ寄せがきてしまうことになるので、そこは充実したいという部分と、それ以外にデジタル診療情報の共有等をできればと思う。

### ○委員

私もバスの件は話したいと思っていた。4月にバスのダイヤ改正があり半年が過ぎたが「不便になったね」という声がたくさん聞こえてくる。

登下校の部分もあるが、やはり通院が一番聞こえてくる部分。民生委員もやっているから「使っていたバスがなくなった」という話もよく聞く。

バスの運転手が足りないというのは苫小牧だけじゃなくて、色々なところで問題になっているので、病院単位でハイエースのようなもので送迎するサービスなどができたらよいと思う。

東胆振物産展がドン・キホーテからイオンになったのは嬉しかった。ドン・キホーテはあまり行く機会がないが、イオンは行く人が多く駐車場も広いし、駅から無料のバスとかがあるので参加しやすいと思う。

観光力として東胆振は様々な美味しい食べ物があったり、よい景色があったりと思うが、道外の人から見た東胆振はあまり魅力的に感じられておらず、見るところが無いと言われることが多い。

東胆振としての観光力が無いなら、フェリーを降りて苫小牧で1泊し、次の日に観光地へ行けるなどアクセスがよいという案内、襟裳岬まで行ける、函館まで行ける、旭川まで行けるというような苫小牧を拠点に色々な北海道の有名なところを観光してもらえるようなアピールもよいと思う。

夢の話だが、苫小牧から函館まで陸路を使うと3時間半程かかるが、フェリーでつながってほしい。福岡と韓国間は高速船があり1時間で行ける。函館も定規でいったらすごく近いので、そのような小型のフェリーのようなものを持ってくると、東胆振も繁栄すると思う。

#### ○座長

バスの便数の減少の話があったが、これは運転手の不足や働き方改革などの理由か。

#### ○事務局

運転手不足は、苫小牧市内だけではなくて全道的な問題で、なかなか解決するのは難しく、今年度4月1日からダイヤ改正になってしまったというのが現状。

ただ、道南バスさんも非常に努力していただいて、皆さんが言うほど減便されてはいないので、循環線という形をつくって、そこから支線に行くという流れに市内はなっている。

不便になった方もいるが、逆に便利になったという方もいる。今後1年間、市としては市内については様子を見たいと市民の皆さんにはお伝えしているので理解していただけるとありがたい。

#### ○委員

西の端と東の端はなくなったバス停が複数あり、とても不便になった。

明德町のほうへ行くと、住宅街に入ったところにあったバス停や、お年寄りが多いところのバス停がなくなっているのがそのような声につながっていると思う。

#### ○事務局

そういう声も聴いている。タクシーも苫小牧市内、特に夜のタクシーが不足しているという市民の声がある。

今年は12月に道南バスさんと市も協力して、夜間にバスを走らせるという取組をやる予定で動いている。

中心から西と東にそれぞれ9時台と11時台に一律1,000円で、忘年会等の後に使っていただくというバスを試行的にやろうとしており、その辺も応援していただければと思う。

#### ○座長

フェリーの話は国の所管になるのか分からないが私も賛成。近ければ近いのがよい。

#### ○委員

東胆振は、道外から見たらあまり認知度はないのかなと思うが、先ほどもあったようにフェリーターミナルがあり、空港も近く、国道も通っており、大動脈がつながっているところなので、まだまだ工夫をすればよい方向にいくと思う。

ブランド力についても先ほど地域を発信するという点について、自分のつくっているものを売れば東胆振の発展になるのかなと思いがちだが、全体として考えるという視点も必要だなと思った。

また、今回、防災・消防のことが触れられており、消防の部分で令和8年4月から苫小牧で受報すると言っていたが、先日、安平町で火災があったときに、第一報が厚真の消防署にかかり「早来の消防署に電話をしてください」と言われ、そこですごく時間的なロスもあったそう。

消防の連絡はかけるほうも慌ててうまく伝えられなかったり、住所を聞かれても分からなかったりしたそうだが、離れたまちになれば場所がわからないこともあると思うので、注意して運用を進めていただきたい。

○座長

消防指令業務の情報はあるか。

○事務局

消防の指令業務の共同化は、苫小牧市で受報する際、通報した方の携帯の位置情報でその場所が分かるようなシステムを導入するので安心していただきたい。

○座長

デジタル化の恩恵も受けられる分野なのかなと思うので、ここは注視しながら進めていければ。

○委員

バス事業のことを少しお話しすると、皆様が言っていた運転手不足は全国的なレベルで問題になってきているのが現状で、今日の新聞でも、北海道中央バスさんがまた減便するという記事が載っていたが、実質問題、運転手さんが減っている。

当社も同じく、募集してもなかなか来ないという状況で、苫小牧市のまちづくりの交通政策の担当の方という協力等お力添えをいただき、何とか運転手の採用につなげていきたい。

運行に関して、苫小牧市内については4月から大幅な再編を行い、変えた当初は、慣れない方々も多数いて、いろいろな要望等が寄せられたが、最近は特に寄せられていないので、皆様の理解を得られたのかなと思う。

今おこなっている懇談会は東胆振定住自立圏であるため、計画外である苫小牧市内線ではなく、東胆振定住自立圏としての目標5系統に対しては、今のところ5系統は残っているのが現状なので、目標は達せられていると考える。

○座長

現状維持もなかなか難しい中で、バス運転手さんの確保等いろいろ行っていただきたい。

○委員

私は白老町から来ている。先ほど東胆振はあまり魅力的ではないのではという話もあったが、私は7年前にこの地域に移住してきた身なので、私から見たらまだまだ色々な魅力があると思うので、その魅力を伝えていければよいと思う。

会社を二つ経営しているので、産業的な側面ですべて思うところはあるが、今日は環境のところでも少しお話しさせていただく。

循環型社会の構築は、唯一環境で書いてある項目で、ここのKPIはごみの排出量が記載してあるが、本来KPIというのは、このKPIを達成すれば、その分野の目標が達成できるだろうというもので設定するので、もし循環型社会の構築というようなことを標榜するのであれば、少しずれているのかなと思った。

ごみの削減量で測るならば、リデュース、リユース、リサイクルみたいな、そういう世界の話だと思うので、そのような項目にしていくと、このKPIが非常に重要な指数になっていくと思う。

循環型社会というと、例えば昨今、欧米だとサーキュラーエコノミーというふうな産業の構造自体をやり籠から墓場じゃなくて、やり籠からやり籠に戻そうみたいな、バリューチェーン全体で持続可能な社会を構築していこうという大きな話になっており、もし循環型という言葉を使うのであれば、それぐらい大きな志を持った指標にすると、魅力的で野心的な目標になっていくと思う。

本来の目的である移住者の増加とか、そういったもので国内外からいろいろ注目されるのかなと思うので、KPIとビジョン、あとは分野の目標の整合性などをもう一度整理すると、より魅力的な対策が取れると思う。

○座長

事務局いかがか。

○事務局

K P Iについては委員の言うとおりで、行政活動そのものの結果ということではなく、行政活動の結果としてどのような便益が住民の方にもたらされるかという、そういう視点が大事かなと思う。

今いただいた意見等を踏まえて、次期ビジョンについてはどんな便益がもたらされるかということをつかりやすいような形で考えていきたい。

○委員

まず初めに観光について。私も今から10年ぐらい前に厚真町に移住してきた。当初来たときは、非常に魅力的なまちだなと思ったからこそ移住してきたわけだが、他の地域に比べて魅力的ではあるけれども少し地味な印象があり、それがどうしてもブランドにつながりにくいのかなと思う。

ただ、これを派手にするということはなかなか難しい話だと思うので、地味は地味なりに、こつこつと情報を発信し、発信する際は、範囲を広げ過ぎてしまうと、ぼやけてしまうので、しっかりターゲットを明確にして情報発信をしていけばよいと、私の住んでいる厚真町も含めて、常日頃思っている。

私は、防災というところで呼ばれているところもあって、防災に話をさせていただくと、先にあった防災体制の充実は、K P Iの基準値が年4回で、5年度には累計29回に対して目標値は6年度でも25回ということで、数字としては非常に回数が多いと見受けられる。

せっかく1市4町でやっているのだから、広域での防災訓練が必要と思っており、どこまで1市4町が連携できるのだろうか。規模が大き過ぎて、日にちを合わせて訓練するというのは難しいかもしれないが、そうしたことを重ねることで、より広域の連携が取りやすいと感じている。

既にそのような訓練を、毎年1回ぐらいやっているというのであれば申し訳ないが、そこまで広範囲では連携してやってないのかなと思った。

○座長

広域の訓練ということで、私が医療の分野での経験では緊急消防援助隊が何年かに1回で苫小牧とか、この近隣地区で大規模な訓練を実施したと思うが、委員の言うとおりで、毎年というのはなかなか無いというのは肌感覚である。

あとはこの地域の医療機関でいえば、災害拠点病院が王子病院と市立病院になるので、そこが中心で大規模災害を想定した訓練というものは実施しているが、そこに4町全て自治体が参加しているかということ、そういう状況ではないので、そういった情報発信は必要かなと思う。

○委員

私は商工会の立場なので、産業振興の地域ブランドの推進について話したい。

東胆振の地域ブランド推進計画に記載があるが、東胆振地域の観光入り込み客数及び交流人口等を増加させるためには、その地域における自然や歴史、文化、食、観光地、特産品、産業などの付加価値を高めて、地域資源の向上、PR活動や情報発信等の活動の拡大が重要とされていることは私も認識している。

長期にわたる新型コロナの感染症の抑制から、社会経済活動の正常化、個人消費の回復が進み、インバウンドの再開も含めた観光産業等を中心とする需要が拡大すると一応期待されている。

ウポポイ開設後4年が経過するが、当初年間100万人の来場者数を予定していたところだがコロナ禍の影響もあり、3年間で85万人ということで、来客数が伸び悩んでいるが、4年目の今年度は来客数の増加が一応見込まれている。

今年度白老町は町制70周年記念事業の影響もあり、温泉ホテルで日本源泉かけ流しの温泉サミット、ウポポイの開業4周年記念のしらおいポロトミンタラフェスティバル、コロナ禍の影響にあり4年間中止となっていた町を代表する一大イベントの白老牛の祭りが5年ぶりに開催され、15,000人の来客数になった。地域の活性化に向けては、集客力のある祭りだとかイベントの開催は欠かせない。

今後も東胆振において、各市町で行うお祭りの開催に向け連携していくのが重要。

特にこの後、地域のブランド、イベントの開催の発信については、また東胆振の食、観光、レジャーの情報発信の効率化だとか、そういうことを含め、観光情報等々の情報発信ということもさらに実施していくことが必要。

#### ○座長

情報発信というところで、デジタル技術やインターネットを使い、1市4町で歩調を合わせて発信できれば。

#### ○委員

鳥獣害防止事業の推進ということで、近年エゾシカが苫小牧の駅前や住宅地に非常に多く出ている。

当然、むかわ町はその比ではなくて、20頭、30頭の群れが今や当たり前のように出てきている状態。

私は農業者ということで、特にそういう危機は非常に感じてはいるが、各市町村、猟友会等も活用しながら、少しでも被害を防ぐような対策を取っていただきたい。

#### ○座長

その辺り事務局から。

#### ○事務局

おっしゃるとおり、鹿は今、苫小牧市内でも市民の方から多く苦情をいただいているというのが現状で、苫小牧市としては、今年度は箱なで鹿の捕獲を試み、135頭捕獲している。

ただ、この鹿の問題というのは一つのまちだけで対策するというのは非常に難しく、仮に苫小牧でたくさん鹿を捕ると、ほかの地区から今度は苫小牧に鹿が流れてくる。

これは全道レベルでやっていかないと減らないと思うので、北海道が全体を見て対策をやっていただくように1市4町で要望活動も行っており、今後もしっかりと北海道に対して要望を継続してやっていきたい。

#### ○委員

私は福祉分野で民生委員も長くやっている。この間、みまもりあいという無料のアプリがあり、自分の情報を入れなくても参加できるというもの。

白老町も令和2年には16,000人もいたが、今年の9月には15,000人ということで、1,000人も減った。

#### ○座長

人口減少は、医療分野にも関係があり、なかなかポジティブに捉えられない情報ばかりだが、いろいろ参考にしていければと思う。

#### ○委員

個々の事業概要はすごく重要なものばかりと感じているが、指標をどのように設定するかによって、その活動や内容が変わってくると思うので、効果がすごく出るような指標というのを考えられているとは思いますが、そこは重要だと思う。

また、これは無理かもしれないが、「こういうことによってこういうのがよくなった」「こういうのが不便になった」など、住民の生の声を何かの機会を取れば、今後について活かせると思った。

また、教育関係なので、生涯学習機会の充実ということで、小さなまちに住んでいるから学習機会が失われるということ为了避免のために、デジタルの活用と自治体の情報発信力等を生かして、色々な人たちが自分の学びたいことを学べるような環境づくりを検討いただきたい。

#### ○座長

デジタル化も含め私からも意見を言わせていただく。医療、教育、それと交通になるが、医療分野においては高齢化の問題がかなり切迫してきている。

65歳以上が人口の4割を占める中で、団塊の世代が後期高齢になると、医療ニーズは高まる状態。医療制度の中でベッドの数が増えるわけではないし、年齢を重ねるごとに疾病は増えていくので、多くのベッドを埋めてしまう可能性があるのも、在宅介護の情報共有がまず必要になってくる。

医療情報のネットワーク化は、現在診療情報の共有という部分でしかないが、ここに介護等の情報共有も必要になってくるし、日常療養を維持する上で交通インフラの整備も必要になってくる。要するに、日常療養がしっかりしていれば、急変率も格段に下がるので、そういったところの広域化、情報共有というものを進めていく必要がある。

そこで、教育の中のデジタル化等どんな地区にいても同じサービスが受けられるというような構築が1市4町で可能になれば良いと考えるので、次期の定住自立圏共生ビジョンにはそういった部分も盛り込んでいければ考えている。

それぞれの分野でいろいろご意見をいただいたが、トータルで何かご発言は。

#### ○委員

皆さんの意見を聞いて、個々の項目に対しての事業はとてもすばらしいと思ったが、今は個々に対してのKPIがあるだけで、何番と何番を組み合わせるみたいなものはない。

地域内の学習等をSNSでアピールして、町外の人も見てもらえば魅力を知ってもらえる等、そのような組合せができればよいと思った。

#### ○座長

他何か。なければ進行は以上となるので、事務局にお返りする。

#### ○事務局

本日はお忙しい中様々な意見をいただきまして、誠にありがとうございました。改めて、様々な意見をいただいて、克服すべき課題が様々なところと認識したところ。

ただ、委員の皆様の中にも二人の方が移住してきた方がいるとおおり、この東胆振1市4町それぞれに強みというものがある。今後それぞれの強みを生かしながら、そして弱みのところについては補い合いながら、エリアとして活性化していく必要があると感じた。

今日いただいた意見は4町とも共有しながら、反映できるところは次期のビジョンに反映していくよう、検討していく。

### (3) その他

### (4) 閉会